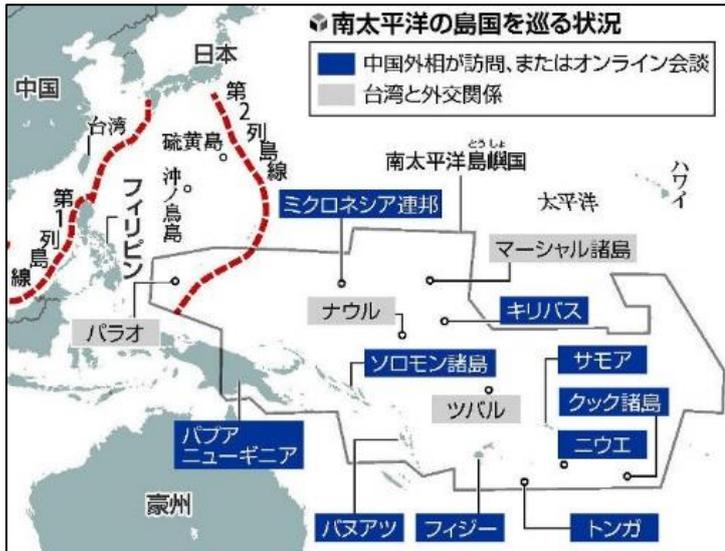


南太平洋島嶼国をめぐるクワッド諸国と中国のせめぎ合い

高井 晋

中国は、4月14日にソロモン諸島と安全保障協定を締結した後、島嶼国のうち太平洋島嶼国に対する影響力を強化するため、5月26日から6月4日まで王毅外務大臣を同地域へ派遣した。王毅外相は、先ず26日にソロモン諸島を訪問してマネレ外国貿易大臣と会談し、国家の主権と安全、領土の一体性を護ることを断固支持すると述べた。その後、キリバス、サモア、フィジー、トンガ、バヌアツ、パプアニューギニア、東チモールの計8か国を歴訪した。さらに王外相は、ミクロネシア連邦、クック諸島、ニウエともオンライン会談を行った。



(<https://newsttopics.jp/url/20532194> より)

動き、中国の覇権主義的な進出の懸念を伝えた。5月上旬には林外務大臣がフィジーとパラオを訪問した。

また、オーストラリアのウオン外務大臣は、5月26と27日にフィジーを、そして6月2日にサモアを訪問し、これらの島嶼国が共通に直面するインフラ整備や気候変動対策に対し積極的な支援を伝えた。

王外務大臣は、5月30日、フィジーで10か国の南太平洋諸島国と第2回外相会議を開催し、安全保障、貿易、データ通信など幅広い分野において、中国との協力強化を目指す協定案の合意を目指した。

しかし、フィジーやミクロネシア連邦等は、中国の南太平洋侵出を警戒し、域内諸国の合意が優先されなければならないとしてこれに反対したため、合意はなされなかった。

因みに、ミクロネシア連邦、マーシャル群島、パラオの3か国は、米国と「自由連合盟約」を締結し、米軍の駐留、国防権限を米国に委託している。

5月24日に行われた日米豪印4か国のクワッド首脳会談では、インド太平洋地域における海洋監視の強化を打ち出した。日本は、5月31日、6月13日からヘリコプター搭載護衛艦「いずも」などをインド太平洋地域に派遣し、この地域における中国の影響力拡大を牽制する目的で、ソロモン諸島、トンガ、フィジー、バヌアツなどの島嶼国を訪問することを発表した。

また、10月28日までに護衛艦の「たかなみ」と「きりさめ」、潜水艦やP1哨戒機が同地域に派遣されるという。さらに、台湾と断交したキリバスに来年1月に日本大使館を設置することを予定している。海上自衛隊の艦艇が南太平洋島嶼国を集中的に訪問することこれまでになく、日本は、クワッド諸国との共同訓練を行い信頼関係の強化を期待している。

クワッド諸国は、南太平洋島嶼国における中国の影響力拡大を警戒し、中国とのせめぎ合いが続いていく。

南太平洋島嶼国は、広大な排他的経済水域を持ち、中国の支援を受けて豊富な水産資源や海底資源などを確保したい思惑があり、中国は、この地域におけるアメリカの影響力を排除し、影響力を拡大する狙いがあった。

因みに中国は、14か国の南太平洋島嶼国のうちの10か国と国交を維持し、パラオ、ナウル、ツバル、マーシャル群島の4か国は台湾と外交関係を維持している。

これより先の2月、ブリンケンは米務長官としては37年ぶりにフィジーを訪問し、島嶼国の引き締め